

事業概要シート

施策	0305	ミライ o n の充実	※の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く	
事業名	図書等整備事業		現状維持	予算額 14,729 千円 ≪ 14,693 ≫ 千円
事業期間	～		財源内訳	国庫支出金 千円 県支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 14,729 千円
根拠法令要綱等	図書館法、大村市立図書館条例 大村市立図書館条例施行規則 読書バリアフリー法			

【事業の目的・概要・対象】

市民の多様なニーズを把握しながら、図書・雑誌等の購入・整理・保存を行い、閲覧・貸出サービス等に提供する。また、利用者の利便性向上及び読書バリアフリー化推進のため電子書籍コンテンツを収集・整備し、図書館サービスを充実させる。

(1) 図書資料等の購入・整備

本館蔵書30万冊の目標に、持続可能な規模で図書資料の購入を継続する。また、小中学校図書室支援を強化するため、児童生徒が行う調べもの学習や調査・研究用の図書資料等の購入を重点化的に行う。

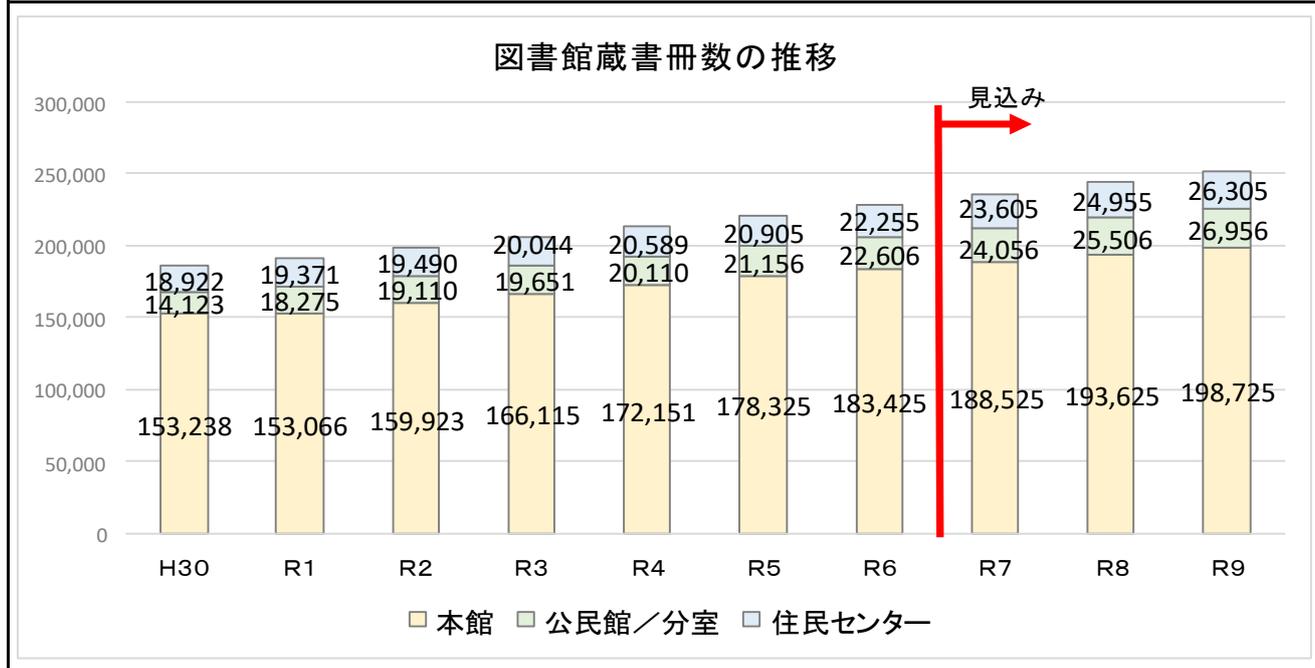
一方、住民センター図書室の利用を促進するため、地区住民ニーズを把握しながら、図書資料を入れ替える。

(2) 郷土資料の収集・整備・保存

大村市独自の情報や風俗などを記録した郷土資料の収集・整備・保存に取り組む。

(3) 電子書籍コンテンツの収集・整備

インターネット上で閲覧できる電子書籍の収集・整備に取り組む。



【背景】

市立図書館（本館分）では、図書購入計画を立て、蔵書冊数30万冊を目標に掲げており、令和5年度末までに約18万冊を整備した。併せて、分室や住民センター図書室の古い図書の整理と図書購入による蔵書を整備していくこととしている。

令和4年度から開始した電子書籍サービスは、令和5年度末でコンテンツ数は、849点となった。今後も電子書籍コンテンツを収集・整備し、充実させていく必要がある。

担当課	図書館	課長	堀江 史佳
担当者	大道 智子	問合せ先	0957-48-7700

## 事業概要シート

### 【活動指標】

指標名		単位	R 5 (実績)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)
①	図書購入冊数	冊	7,243	7,700	7,700	7,700	7,700
②	蔵書冊数	冊	220,380	228,080	235,780	243,480	251,180

### 【成果指標】

指標名		単位	R 5 (実績)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)
①	市民一人当たりの貸出冊数	冊	6.8	9.0	9.0	9.0	9.0
②	市民一人当たりの蔵書冊数	冊	2.22	2.29	2.35	2.42	2.48

### 【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計
事業費	13,738	14,734	14,693	14,729	14,729	14,729	87,352
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	11,488	11,480	0	0	0	0	22,968
一般財源	2,250	3,254	14,693	14,729	14,729	14,729	64,384
人件費	13,826	19,005	21,897	21,897	21,897	21,897	120,420
職員(人)	1.80人	2.60人	2.60人	2.60人	2.60人	2.60人	14.80人
時間外勤務(h)	368h	49h	570h	570h	570h	570h	2697h
会計年度任用職員(人)	0.00人	0.00人	1.00人	1.00人	1.00人	1.00人	4.00人
フルコスト	27,564	33,739	36,590	36,626	36,626	36,626	207,772

妥当性 (市の関与)	市立図書館の資料確保であり、市が実施主体となることは妥当である。
有効性 (施策貢献度)	市民の多様なニーズや学習意欲に応じ、新しい図書・雑誌等を多く購入することは、図書館の充実を図る取組として有効であり、施策の推進に貢献するものである。
効率性 (コスト)	令和6年度から財源としてのふるさとづくり基金繰入金がなくなり、全て一般財源での購入となった。今後もこの規模を維持し、購入を継続しなければならない。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり